

授業科目名	和声法 I C	担当形態	演習 クラス分け		
		開講学期	春学期		
担当教員	小林 聡	単位	1	年次	1

＝授業のテーマ及び到達目標＝

和声法 I C では、3 和音の第 2 転回位置までを、課題を実施しながら、学習する。
また、バスとソプラノの定型を理解し、ソプラノ課題にも対応できる応用力を習得する。

＝履修の条件と学習の方法＝

家庭での自主的な準備が必要となるため、必要に応じ、課題を与える。

2/3 以上の出席がない場合、理由に関わらず、失格とする。遅刻、早退、中途退席 3 回で欠席 1 回と見なす。
また、授業時間の半分の時間（45 分）を超過しての遅刻、早退、途中退席は欠席扱いとする。無断退席・無断退室禁止。携帯端末使用禁止。飲食禁止。

＝授業の概要＝

和声の基礎となる楽典的な事項の確認から始め、毎回の授業で課題の実施を行い、実施例の確認し、必要に応じて添削を受けながら、3 和音の第 2 転回位置までを学習する。バス課題の実施が中心になるが、バスとソプラノの定型を理解し、ソプラノ課題にも対応し、3 和音の第 2 転回を使ったバスを作成するための応用力を習得する。

＝授業計画＝

- 1 回 導入
- 2 回 基本位置 3 和音の配置 - 1 -
- 3 回 基本位置 3 和音の連結 - 2 -
- 4 回 和音設定の原理 - 1 -
- 5 回 和音設定の原理 - 2 -
- 6 回 和音設定の原理 - 3 -
- 7 回 各種の調 - 1 -
- 8 回 各種の調 - 2 -
- 9 回 3 和音の第 1 転回位置 - 1 -
- 10 回 3 和音の第 1 転回位置 - 2 -
- 11 回 3 和音の第 1 転回位置 - 3 -
- 12 回 3 和音の第 2 転回位置 - 1 -
- 13 回 3 和音の第 2 転回位置 - 2 -
- 14 回 3 和音の第 2 転回位置 - 3 -
- 15 回 和声法 I C のまとめ

＝テキスト（必携）＝

書籍名：和声 理論と実習 I
著者名：島岡讓 他
出版社：音楽之友社

＝参考書・参考資料（必携）＝

必要に応じて指示する。

=成績評価の方法と評価の基準=

定期試験、授業への参加姿勢、日頃の添削課題など、総合的に判断する。(85点以上A、70～84点B、60～69点C、59点以下D) 授業を著しく妨害した場合はC・D評価もありうる。

=その他=